ユネスコ会員綱領

○心の中に平和の守りを固めよう
○すべての人間の尊厳を重んじよう
○教育・科学・文化の発展に努めよう
○民族間の疑惑と不信を除こう
○世界を友愛と信頼の絆で結ぼう

高崎ユネスコ

https://takasaki.gunma-unesco.com

発行所
高崎ユネスコ協会
高崎市高松町35番地１
（〒370-8501）
高崎市市民部
防犯・青少年課内
電話（027）321-1297

ユネスコカの発露
～コロナ禍2年目新たな活動にトライ！～

会長　串田　昭光

私たちは、コロナ禍二年目新たな活動にトライすることができました。その源は、五十周年記念行事で培ったユネスコ力（「課題発見力」「課題解決力」などの「実践力」）の発露にありました。そこには、日頃の健康管理や感染症対策などに万全を期すことにより、未曾有の感染に対してある程度のリスクは避けられるという、これまでの学習や体験で得た知恵によるところが大でありました。それらを糧に、開始時間を工夫し、欠くことなく実施した月例理事会で、新たな行事の企画や運営について、慎重に協議し決定した事柄に粛々と取り組みました。

会員をそのように仕向けた心根は、高ユ協の活動基軸である青少年の健全育成、強いては「持続可能な社会の実現に向けた担い手を育むこと」「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の実現に貢献すること」にありました。そして、そのことは会員相互にとってユネスコ理念や精神（「世界平和・国際理解・国際協力」など）を深く理解する機会となるとともに、総意で新たな活動にトライする原動力となりました。いうなれば、逆境こそ活路を見いだす「創意工夫の年度」となっています。

とはいうものの、昨年に引き続いての「書面による定期総会」「青少年キャンプ・国際理解バスの中止」は、残念でなりません。関係各位の皆様が理解を示してくださっていることが何よりであります。

それにつけても、会員はもとより防犯・青少年課、小中特別支援学校長会、ＰＴＡ連合会などの関係機関や関係者の理解や力強い支援、協力は励みとなっています。心より感謝と御礼を申し上げますとともに、今後ともご支援ご協力をお願い申しあげます。

以下は、その概要です。

１【国際理解展示会（群テレ放映）】

(1)趣旨；「Ｐｅａｃｅ　ｆｏｒ　Ｔｏｍｏｒｒｏｗ～ＳＤＧｓの実現に向けて国際理解を深めよう～」のテーマ達成に向け、会員が在住や訪問した国で体験した事柄を発信する。

(2)日時；令和３年10月30日㈯10時～15時

(3)対象；小中学生、市民

(4)内容；ユネスコスクールの取組み、会員十五名が在住や研修で訪れた五大陸にまたがる世界三十ヶ国の地域で体験した歴史、文化、習慣などを発信する。

具体的には、ユネスコスクールとしてＳＤＧｓに取組む六郷小の様子、ＵＫの実状報告、インカ遺物・インドネシア民芸品展示、アルパ演奏など

２【上野三碑世界遺産巡り（参加者少数で未実施）】

(1)趣旨；上野三碑の見学や状況を聞くことにより身近な地域の文化財に関心や理解を深める。

(2)日時；令和３年10月17日㈰９時～15時30分

(3)対象；小学校５・６年、中学生、特別支援学校中等部生（三十名）

(4)内容；会員、高経大生、高商大生ボランテイアが山上碑、多胡碑、金井沢碑について解説する。

３【〝ＳＤＧｓ〟クリアファイル作成と啓発（高ユ協版）】

(1)趣旨；作成した紙素材のクリアファイルにより〝ＳＤＧｓ〟の啓発に努める。

(2)内容；子どもや市民などに随時、手交することを通して〝ＳＤＧｓ〟理解の輪を広げる。

六郷小SDGｓの取組み

ペルーの展示物

チャランゴとアルパ

学生ボランテイアと共に

※写真は全て国際理解展示会にて

国際理解展示会（Peace for Tomorrow）

～SDGsの実現に向けて国際理解を深めよう～

国際理解バス部長　中島千恵美

二年にわたる新型コロナ感染症は、私たちに新しい生活様式を余儀なくさせています。これまで楽しみにしていた行事や会合が開催できなくなり、主催者は頭を悩ませたに違いありません。高崎ユ協の恒例事業「国際理解バス」も、二年間実施できず、残念至極でした。

しかし、私たちは、年月の流れの中で「それなりの生活」をし、自分にできる「感染しない術」を身につけ始めています。国際理解バスもこのような変化の中で、今できる国際教育をやってみようと提案をし、役員会議で協議の末、８月21日㈯に実施する運びとなりました。ところが緊急事態宣言が発令され、またもや中止せざるを得なくなりました。事前の話し合いを重ねたので、ここで終わらせたくないという思いが役員の胸を過ぎり、協議の結果、10月30日㈯まで延期といたしました。その間、防犯・青少年課のご支援もあり小・中学校へ案内を出すことができました。

実施に際してはコロナ禍ゆえに様々な意見が出ました。一例を挙げると、

１　学校へ案内文を出して、参加表を集約するのか。・・・集約しないで自由参加とする。

２　受付での対応はどうするか。・・・出品をしない役員有志で賄う。当日は、学生ボランティアが３人と市役所の防犯・青少年課のインターンシップの方々が参加してくださった。

３　役員以外の出品者にどのように依頼するのか。・・・電話と郵便で内容を周知する。

４　中央公民館集会ホールの展示のレイアウトをどのようにするか。・・・防犯・青少年課担当が作成。

５　ＰＯＰは誰が用意するのか。・・・個々のテーブル上は国際理解バス部が用意し、他は防犯・青少年課が準備。

６　展示板は何枚必要か。・・・計画では６枚だったが、足らず補充した。

７　リハーサルが必要ではないか。・・・出品者各自が役員会の時に持ち寄り、２回に分けて説明会を行った。

８　出品物の扱い、保険などはかけられないので自己責任としたい。・・・出品者全員快諾。

９　参加役員に限りがあるので、段取りよく準備を進める必要があるので図表が必要ではないか。・・・防犯・青少年課担当者がきめ細かく作成し全員に周知した。　等々

今年初めて行う国際理解展示会にワクワクしながら臨みました。話し合いを進めていくと、新たな発見や思いがどんどん膨らんで、当初の申告した出品物よりも多くなっていきました。

展示　アジア　準備

が、今回の催しは国際理解バスの代替として提案し実施することになったので、堅苦しい枠ははずして「みんなが楽しく平和を語り合い、世界に目を向けよう、ＳＤＧｓを考えよう！」など、一人ひとりが自分の思いで展示し、来場者の一人でも多くの方々に世界に目を向けていただき、これまで知らなかった世界を楽しんでいただければとの思いで進んでいきました。参加者は全員十七色のＳＤＧｓバッジを胸に付けて。

コロナ禍で会場を借りる場面で、注意を払うことが多く出てきましたが、みんなで知恵を出し合えば困難も乗り越えられる

異国文化に触れる親子一群テレ取材中

中南米

アフリカ

ヨーロッパ

という実感も生まれました。他市では公民館を閉鎖していると聞きましたが、高崎市は充分に注意を払えば使用できました。集会ホールと視聴覚集会室を貸し出していただいたことには本当に感謝しています。この困難な環境の中で最善の方法を編み出すことは、これまでにない経験でもありました。

学生ボランティアとの関わりもユネスコ協会の大きな柱です。これまで高崎経済大学、高崎商科大学、高崎健康福祉大学の学生有志が児童画展やユネスコキャンプなどの通年事業に参加してくださっていました。しかし、今回は年間計画に掲載されていない事業だったにも関わらず、大学の掲示板を見て参加してくださった学生もいて、幸せな気持ちになりました。聞くところによると「コロナ禍で何かをしなくては・・・。」という自分の気持ちとユネスコ協会のボランティア募集の内容が一致したとのこと。他の人のために何か無償でお手伝いをしようという心根に参会者はみな感動しました。

コロナ禍であっても、子どもたちのために何かできることはないか意見を重ねてきた結果、自分たちが楽しい気持ちで取り組めば「何かできる」と実感したことが、今回の展示会で得たことでした。

消毒にはじまり消毒に終わるような施設の使い方にも慣れ、また、公民館のスタッフの皆様も消毒を徹底してくださり、安心して会場を借りて、事業に向かう事ができました。

反省として、準備が万全だっただけに、来場者が少なく残念だったということです。このことを踏まえて、国際理解バスの代替ではじめた「Peace for Tomorrow～SDGsの実現に向けて国際理解を深めよう～」を今年限りの事業で終わらせず、毎年の事業の一つに取り上げたら、児童生徒のみならず一般市民にもSDGsの内容を広げられると思いました。

また、参加者から、来場者を増やす方法として、展示と同時に海外の物品の即売（募金箱に希望金額を入れていただく）をするという案が出ました。子どもも大人も楽しめる国際理解展示会を広めることによって、市民がSDGsの達成を意識し、高崎ユネスコ協会が率先して2030年までに今より前進できるように取り組んでいくことが肝要ではないかと話し合いました。

視聴覚集会室

アルパ演奏

世界のコイン

海外児童の作品

第49回　高崎ユネスコ国際児童画展

令和3年10月22日～27日　於／高崎シティギャラリー

児童画部長　徳井理恵子

コロナ禍の中の開催

高崎ユネスコ国際児童画展が、今年も無事に開催されました。昨年初めから広がりはじめたコロナウィルス感染症の先行きが見えない今年の夏前から児童画展の準備がスタートしました。コロナ感染拡大の状況によって開催そのものが難しくなることも想定しつつ、夏休み明けから展示会の具体的内容が協議されました。広く市民にアピールできる「広報たかさき」への掲載は、来場者数の予測が難しいため残念ですが中止しました。緊急事態宣言が解除され、迎えた開催日前日の21日午後に作品の搬入、展示、審査が行われました。

まず、図工・美術主任会の先生方により展示用物品の搬入や展示ガイドの糸張りが行われます。その後各校の先生方が作品を搬入し、脚立に乗り作品の展示作業をします。

全て展示されると審査です。小学校・中学校・特別支援学校の代表校長、教頭、主任会の先生方約30名で時間をかけて審査されました。

展示作業の様子

熱のこもる審査風景

作品数は、昨年より少し増やし小学校五百九点、中学校二百四十四点、合計で七百五十三点が出品されました。高崎ユネスコ協会長賞等の受賞者は、小学生62名、中学生32名、合計94名でした。

盛会だった児童画展

入場時のマスク着用、検温、手指消毒、健康調査表記入など様々な感染防止策をとり、来場された方にご協力いただきました。お一人ずつ記入して頂きましたが、途中からは、ご家族で来場された場合には記入場所の混雑を避けるためもあり、家族で一枚記入とし同行者の名前と体温の記入もお願いしました。

受付・検温の様子

初日、入口付近で開場時間を待っている方が何人もいらっしゃいました。平日の昼間は、お孫さんの絵を見にいらした誇らしそうな笑顔のおじいちゃんおばあちゃんが、夕方は、学校帰りのお子さんと一緒のお母さんが、暗くなってからは仕事帰りのお父さんに来場いただきました。

作品に見入る親子連れ

土日は、ご家族皆さんで来られた方がたくさんいました。絵の前で記念写真を撮ったり、感想を言い合ったりと和やかで幸せな空気に包まれていました。

作品を鑑賞する参観者

シティギャラリーで開催されている他の催しに来た方が見てくださったり、通りがかりに寄ってくれた方もいました。今、様々な催し物が中止や縮小になっているので、「やってもらって良かった」と声をかけていただきとても感激しました。

6日間の総入場者数は、二千八百七十三名でした。会場入り口に設置した募金箱への協力額は、三万三百三円でした。書きそんじハガキは、二十枚集まりました。

ミャンマーとバングラデシュから参加

今年度も目黒ユネスコ協会会長のご厚意により、ミャンマー国連邦共和国から1点、バングラデシュ人民共和国から5歳から6歳の描いた9点が披露されました。「バングラデシュはとても自然豊かな国で、子どもたちは自然の絵をよく描きます。」とメッセージが添えられていました。

ミャンマーとバングラデシュの児童の絵

市内2つの大学からたのもしいボランティア

昨年に続き、高崎経済大学ボランティアサークルＡＣＴから11名、加えて今年は、高崎商科大学から2名と大変多くの支援がありました。受付け周辺での案内誘導、検温、健康調査表への記入説明や会場内見回りなどとても良い働きをしていただき大変力になりました。

来年度キャンプ等へのボランティア参加にも興味を持っている方もいて、今後も継続して協力をお願いしたいと強く思いました。

ボランティアの学生さん

高崎ユネスコ協会の活動紹介展示

展示会場入り口近くに、高崎ユネスコ協会の活動内容をまとめた物を掲示しました。主な活動であるキャンプ、国際理解バス、「世界の記憶」である「上野三碑」について、そして募金活動についてです。図表や写真を使って日頃の高崎ユネスコ協会の活動を知っていただけるようにしました。ユネスコ活動に関心のある方から質問を受けることもあり、説明や理解の手助けになりました。

高崎ユネスコの活動紹介

昨年、今年とコロナウィルス感染症が蔓延し、先の見通しが立たない不安の中、それまでの日常生活が送れず様々な制約がうまれました。コロナ禍でほぼ止まってしまった昨年。コロナ禍でも方法を工夫して動こうとした今年。

来年こそは制約なく以前のように様々な活動ができるようにと願っています。特に子どもたちには、今しかできない体験や今味わって欲しい感動の機会を提供していけるように、私たち大人の力が試されていると感じています。

「世界の記憶」上野三碑巡り

キャンプ部長　渡部　孝男

コロナ禍でも47回と歴史ある「青少年キャンプ」に替わる行事はできないか。感染対策や安全対策をしっかりやればできる、近くにあり公共交通機関を利用できる行事としてユネスコ「世界の記憶」上野三碑巡りを企画しました。

身近にある貴重な歴史遺産である上野三碑（国の特別史跡、ユネスコの世界の記憶に認定）を実際に見て解説を聞くことにより、地域の文化財に関心を持つことができる。上野三碑からのメッセージを学ぶ事により、視野の広い国際人としての資質を高めることができるのではないかと考えました。また、他校や他学年との交流、高崎経済大学・高崎商科大学との交流により、コミュニケーション能力を磨くことや高崎自然歩道を歩き自然に親しめるようにしました。

期日は、10月17日(日)午前9時～午後3時30分。コースは吉井運動公園―多胡碑・記念館―吉井駅―西山名駅―山上碑・山上古墳―自然歩道石碑の道―金井沢碑―城山小学校と決定。実施要項、当日の活動計画、参加者募集、配布資料準備、下見等順調に進みました。募集人員は小学校5・6年生及び中学生計30名（10名以上で実施）。申し込みは9月13日～9月24日まで。

ところが応募・参加申し込みは6名と少なく、「世界の記憶」上野三碑巡りも残念ながら中止となってしまいました。やはりコロナ感染への心配が非常に大きかったのではないか。特に募集期間が、まだ非常事態宣言中であったことが影響したと思います。また9月にできなかった学校行事が10月に集中したことも原因の一つだと思います。これからのユネスコ行事を考える上で、身近な地域の文化財を訪ねるなどの日帰り行事も大きな選択肢であることが分かりました。

山上碑 681年

多胡碑 711年頃

金井沢碑 726年

県ユ連主催

研修視察（中之条ユ協主管、白久保お茶講保存会協力）

令和3年7月3日中之条ツィンプラザ交流ホールにて、「白久保のお茶講体験」が行われた。中之条町歴史と民族の博物館ミュゼ館長の山口通喜氏の講話『南北朝時代の吾妻と青山氏～闘茶の伝承～』を拝聴し、お茶講も体験した。

お茶講とは、お茶の味を当てる民俗行事である。4種10服（現在は4種7服）、記録記載方法、参加者の名を「花、鳥、風、月…」と記す、正解者に賞品を出すなどは、鎌倉から室町時代武士の間で行われた「闘茶」の流れをそのまま伝承していること。今でも毎年2月24日に、白久保天満宮祭礼の宵祭りとして行われ継承されていること。これにより1990年（平成2）に「上州白久保のお茶講」の名称で国指定重要無形文化財に指定されている。

その後、密を避けた会場で、試飲後一人ひとり4種7服のお茶を味比べした。今回7問全部正解者・全部不正解者が1名ずつおり、どちらも験が良いとのこと。

明るい気持ちと商品のアメを持って帰路についた。昔のままの姿で伝承された民間の文化がこのまま未来遺産として子から子へと継承されていくことを切に願う。（松本）

運営研修会兼事務局員研修会（館林ユ協主管）

令和3年11月27日館林市城沼公民館で『シビックプライド！日本遺産「里沼」講座』と題した熱のこもった講演が行われた。講師は市史編さんセンター所長岡屋紀子氏。町おこしの一つの例として示唆に富んだものだった。

館林の沼辺文化である「里沼」（SATO-NUMA）が「日本遺産」として認定（令和元年）された経緯とは？有名なツツジでは通年ではない理由で認定されず、その他の神社仏閣、歴史的人物等の館林の魅力「町のたからもの」を丁寧に掘り起こし見直した。結果、その特色の中心的な核「沼・沼辺」の発見に辿り着いた。そして、シビックプライド（誇り・郷土愛）のストーリー（物語）仕立てとして「沼」（祈り・実り・守り）の文化を磨き上げ、独自の歴史・文化を持続可能にしたところが素晴らしい。

また、造語である「里沼」「ヌマベーション」を地域活性化のキーワードとして、ネットワークの構築やまちづくりに役立てるなど里沼のもてなし文化に影響を与えている。今後の推進体制の盤石さが問われることになるが、更なる日本遺産の様々な構成文化財の活用や学校等の教育機関との連携協力による未来の「里沼・沼辺」文化の発展に期待したい。（山崎）

2021年度関ブロ栃木大会参加報告

「2021年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会in栃木」が、令和3年10月2日初めての試みとなるオンラインにて開催された。高ユ協からは個人1名、串田邸をサテライト会場として6名、計7名が参加した。

午後1時、足利歌舞伎（舞楽）の子ども達の美しい舞で幕を開け、国内委員会報告、次に双日総合研究所相談員多田幸雄氏による基調講演の後、分科会に分かれ第2分科会で前橋ユ協の発表を視聴した。発表は事前収録されており音も長さも完璧。長年継続中の国際交流の素晴らしい内容だった。多少音声のトラブルはあったが、遠方からの参加を可能にし、移動時間のロスも無い。今後の大会への一部取入れを期待したい。

人の心に平和の砦を
～ユネスコ作文審査にて～

副会長　上田　一美

小学生七百六十九編、中学生五百六十八編、合計千三百三十七編。これは、本年度の『第四十九回高崎ユネスコ作文』募集に寄せられた作品数です。私たちは審査にあたり、例年と同じく一つひとつ丹念に読んでいきました。新型コロナウイルス禍・オリンピック・パラリンピック・ＳＤＧｓなど今を反映しているものをはじめ、平和・夢・命・環境・文化・教育・協力・相互理解・個性等に関する題材の作文が多くあり、印象に残りました。

応募者のみなさんは、見聞きしたり経験したりして抱いた喜び・悲しみ・怒りなどの思いや疑問を、様々な手段で調べたり人に聞いたりして学習しています。そして考え、文章に表現しながら心に強く思い、思ったことを行動に移す決心をしています。すでに実行している人もいます。

これはすでにユネスコ精神と重なる考えや行動です。そしてＳＤＧｓの実現を目指して実践していると言えます。

ユネスコ憲章前文に、「戦争は人の心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和の砦を築かなくてはならない。」とあります。まさに、高崎ユネスコ協会の活動の指針となっているものです。

たくさんの作文から一人ひとりが心に平和の砦を築くための動きを進めていることが読み取れて、喜びと安堵感を抱いています。

小学生作文最終審査

作文ですから、文章の組み立てや表現の方法その他大事なことがあります。市内の学校から代表の先生方が審査に参加して下さっていますので、この欄では心や行動に視線を向けて書いてみました。

作品中の、大事な人との別れの場面に共感して少々目を潤ませながら、人の心に平和の砦を築かなくてはならないと、もう一度強く自身に言い聞かせました。

中学生作文最終審査

世界寺子屋運動（コ・アクション）

令和４年１月11日～2月10日

～書きそんじハガキ回収キャンペーン～

昨年度は、ハガキ6,115枚その他総額363,015円分のご協力をいただきました。その中から、手数料・送料を差し引いた金額を日本ユネスコ協会連盟の世界寺子屋運動へ送付いたしました。募金を含めた累積金額は１千万円を突破。地道な活動の大切さを実感しています。

現在世界中に蔓延するコロナ禍の影響や政変から、寺子屋建設は中断しています。替わりにミャンマーに布マスクと石鹸を送るなどのウイルス対策や、クラス再開の支援など、コロナ終息と政権安定まで、教育環境を整えるために今できる活動を行っています。コロナ収束後には、活発な支援活動の再開が予定されています。

令和３年度は令和４年１月11日から2月10日まで、高崎市内小・中・特別支援学校及び幼稚園へ募集のキャンペーンを行います。皆様のご協力をどうぞよろしくお願いします。

合同表彰式のお知らせ

第49回高崎ユネスコ国際児童画展・作文入賞者「合同表彰式」を開催します。

日時：令和４年２月20日（日）
９：30～11：10

会場：高崎市文化会館大ホール

昨年はコロナの急拡大で中止しました。
写真は一昨年の表彰式の様子です。

あとがき

ＳＤＧｓは地球の存続、そして地球上の「誰ひとり取り残さない」世界を目指すものです。その壮大な目標にめまいがしそうです。

「何から始めよう？」「クリアファイルを紙製のものに変えアピールしてはどうだろう」高崎ユネスコ協会は、ＳＤＧｓの目標№14「海の豊かさを守ろう」に目を向け、マイクロプラスチック削減への脱プラスチック運動をアピールします。

具体的には、紙製クリアファイルにロゴマークとＳＤＧｓのカラーホイールを入れ、行事等で参加者に配布します。子ども達のＳＤＧｓへの関心を惹起し、理解を深める契機づくりとなることを期待します。

（松本）